



プログラムの概要

- 川や湖でEボートをこぐ。10人乗りのEボート(空気注入式のボート)ではチームワークが重要であり、みんなで協力する力が養われる。
- 普段と違った視点から川を観察することができる。

関連する学習	・3・4年生－社会「災害及び事故の防止」 ・5・6年生－体育「保健(けがの防止の理解、簡単な手当)、場や用具の安全」 ・総合的な学習の時間「自然体験、グループ学習」
所要時間	45分×2
活動場所	流れのゆるやかな川や湖

Keyword

キーワード

- 川の流れ
- チームワーク
- 感性



活動のねらい

- 川での活動の楽しみを通じて、仲間と協力して目的を達成することの大切さに気づく
陸上から流れる川の水を見ることはよくあるが、川から陸上の風景を見る機会は少ない。チームワークが大切となるEボートで川や湖を移動することで、普段あまり見ることのできない川の様子を確認することができる。

準備するもの

○活動に必要な道具

- ・Eボート(数艇。空気注入式のもの)
- ・パドル(1艇あたり10本)
- ・空気入れ(Eボートに空気を入れるため)

○川に入るための服装

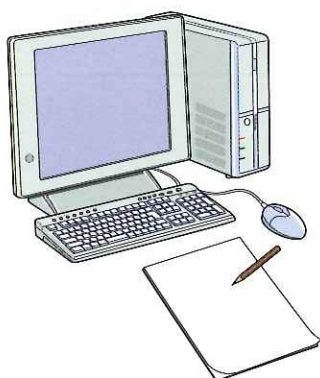
- ・ぬれてもよい服(水着や体操服など)
- ・ライフジャケット(必ず装着する)
- ・ヘルメット(できれば装着する)
- ・リバーシューズ(運動靴でも可。ビーチサンダルのように脱げやすいはきものは不可)

○安全に活動するための道具

- ・スローロープ(指導者および補助者用)
- ・ホイッスル(指導者は必携、子どもたち用は可能であれば準備する)
- ・帽子
- ・日陰の用意(テントなど)
- ・救急箱
- ・飲料水

○その他

- ・ぞうきん(収納時にEボートの水をふき取るため)



① 情報収集と講師や補助者の依頼

- ・Eボートの体験活動を安全に実践するための方法や留意点、道具の使い方などの基本については、川の指導者（必要な知識や技能をもつ川に学ぶ体験活動協議会の認定したEボート指導者）に依頼する。
- ・指導者は、川での活動を行っている地元の市民団体などから探す。「川に学ぶ体験活動協議会（RAC）」では、全国の川の指導者を紹介しているので相談してみるとよい。
- ・活動では、安全管理の面から多くの補助者も必要となる。保護者などに協力を依頼するとよい。

② 道具や装備の手配

- ・活動に必要な道具（Eボートやライフジャケットなど）を準備する。
- ・Eボート、ライフジャケット、ヘルメット、スローロープなどについては「子どもの水辺サポートセンター」や「川に学ぶ体験活動協議会（RAC）」などで貸し出しを行っているので相談してみるとよい。

③ 活動場所の選定、活動計画の作成

- ・事前に指導者と相談し、活動場所を決める。
- ・活動場所は、流れがゆるやかで危険が少ない場所を探す。なお、川が浅すぎるとパドルが川底に当たってしまうため、ある程度の水深が必要となる。
- ・活動場所は必ず事前に下見を行い、下見の結果に基づいて、安全を確保するためのスタッフ配置計画を行う。明らかに危険な場所については、立ち入り禁止区域にして監視員を立てることが必要である。コース上に障害物がある場合は、近づかないように周知するとともに、できれば表示するか撤去しておく。
- ・炎天下の活動では熱中症や脱水症状を引き起こす可能性があるため、日陰の場所を確保しておく。適宜飲料水を摂るなどの配慮も必要になる。
- ・活動場所やスタッフ配置計画が決定したら、詳細な活動計画書を作成する。

④ その他

- ・事前に河川管理者、地元警察署、漁業などの河川利用者と連絡・調整しておく。
- ・活動場所が遠い場合には、アクセス方法を確認するとともに移動手段を確保する。
- ・万一に備えて、傷害保険、賠償保険に加入する。
- ・活動当日の天気や河川情報の収集を行い、天気が悪い場合には延期や中止の判断をする。活動中も天候の変化や川の水位等の情報収集を、常に心がけることが重要である。



スタッフ配置計画例



- ・補助者（大人）は、活動場所だけでなく、上流と下流それぞれに配置する。



事前の下見は入念に

導入



Eボートの組み立て



- ・ボートなどをこいだ経験があるかを問いかけて、興味をひく。
- ・「1-3 川を流れよう」を実施したときの楽しさを思い出させ、ボートではさらに「川の中から陸上の風景を見る」という楽しみがあり、仲間と協力するということが必要になることも認識させる。
- ・Eボートに乗ることを伝え、その概要や特徴（しくみや安全性）を説明すると同時に、川で安全に活動するために大切なことは何であったかも再確認する。Eボートの安全性については特によく理解させ、不安感をもたせないようにする。
- ・みんなで協力してEボートの組み立てを行う。ボートを傷つけないように、とがったものがない場所（下見の際に選定しておくとい）を選んで、Eボートを広げる。
- ・組み立てが終わったら、指導者が、Eボートの空気圧やシートがしっかり固定されているかなどを必ず確認する。
- ・ライフジャケットやヘルメットを装着させ、正しく装着されているかを確認する。

活動Ⅰ Eボートに乗る前に



パドルの練習

- ・活動範囲や危険区域等の留意点を伝える。
- ・パドルの操作方法を練習すると同時に、周囲の人にパドルが当たり、けがをさせることがあることなどを理解させる。
- ・ボートに乗ったら、むやみに立ち上がらないことや、急に立ち上がるとバランスを崩して落水することがあることも注意しておく。
- ・全員が協力しなければ、うまく操船できないことを認識させる。
- ・最初是指導者が同乗するが、ある程度習熟できたら、子どもたちだけで操船することを伝える。

活動Ⅱ Eボートに乗る



Eボートに乗る様子

- ・指導者の指示に合わせてパドルを操作する。
- ・パドルの操作に慣れてきたら、活動範囲内で自由にこがせる。
- ・自由にこがせても、蛇行してうまく進めない状況となるはずである。子どもたちには、時間の経過をみて、リーダーを決めたり、舵取りの方法や原理を伝えたりする。
- ・子どもたちだけである程度の操船ができるようになったら、指導者は下船し、子どもたちだけで操船させる。

活動Ⅲ レースをする



レースの様子

- ・Eボートが数艇ある場合、レース形式にしてもよい。
- ・ゴールを決め、タイムレースとする方法もあるが、水際の形の違う葉っぱを5種類集めてくるなどのレース形式もある。
- ・川では、上流に向かう場合と下流に向かう場合とでは、こぐ際にパドルにかかる力に、大きな差があることを実感するはずである。
- ・レース形式にすると、子どもたちは、効率的なパドルの持ち方やこぎ方、操船についていろいろなアイデアを出すようになり、自ら行動して課題を解決することの楽しさや、チームワークの大切さを学ぶことができる。

活動Ⅳ Eボートを収納する



片づけの様子

- ・ゴール地点に着いたら、みんなで協力してEボートを陸上に運び、砂やゴミを取り除き、水気をよく拭き取る。
- ・水気やゴミのないことを確認し、空気を抜き、パドルやシートの数を確認するとともに、コンパクトに折りたたみ、袋に収納する。

まとめ

「Eボートをこいでみてどう感じたか」などと問いかけてみる。子どもたちは、組み立てから操船、さらには収納までの活動を通して、みんなで協力することの大切さに気づいたはずである。また、川では、流れの早いところや遅いところがあることに加え、上流に向かってこぐ場合と下流に向かってこぐ場合とでは、こぐ力とスピードが違うことで、水の流れのもつ力（動水圧）にも気づいたはずである。それらを確認して、まとめとする。

発展

てこの原理と併せて考えさせ、パドルの支点、力点、作用点がどこで、どのようなベクトルで力が加わっているかを振り返る。

ライフジャケットを着用して川の流れを体験すると、より効果的に川を体感できる（→「1-3 川を流れよう」）。

参考情報

○川の安全対策に関する情報

- ・水際の安全ハンドブック（財団法人 河川環境管理財団 発行）

(<http://www.mizube-support-center.org/contents/handbook.html>)

- ・安全な川遊びのために（DVD）（財団法人 河川環境管理財団 発行）

- ・全国の水難事故マップ2003-2009 (<http://www.mizube-support-center.org/map/suinan/index.html>)

○川の水位や天気に関する情報

- ・川の防災情報（国土交通省）(<http://www.river.go.jp/>)

○講師の要請に関する相談先

- ・NPO法人 川に学ぶ体験活動協議会（RAC）(<http://www.rac.gr.jp/>)

○Eボートやライフジャケット、ヘルメット、スローロープなどの貸し出し・購入に関する相談先

- ・子どもの水辺サポートセンター (<http://www.mizube-support-center.org/top.html>)

- ・NPO法人 川に学ぶ体験活動協議会（RAC）(<http://www.rac.gr.jp/>)